



2019年露地シャインマスカット病害虫防除暦

J A 中野市営農センター
J A 中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)	収穫前 使用時期	使用 回数	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項	
	4月上旬 粗皮はぎ後 (発芽前)	地域散布 展着剤 ラビキラー乳剤	20mℓ 500mℓ	発芽前 (休眠期)	2回	300	ブドウトラカミキリ (ブドウカガ)	①トラカミキリ、ブドウスカシバの発生がある場合は散布する。 ②発芽後の散布は薬害が発生するので、必ず発芽前に散布する。 ③ラビキラー乳剤は訪花昆虫に影響があるので、4月上旬散布を厳守する。 ④晩腐病発生園は「スミチオンフロアブル」250倍(休眠期、1回)を加用散布する
	4月下旬 (発芽直前)	黒とう病重要防除 ①アビオン-E(展着剤) デランフロアブル	100mℓ 500mℓ	休眠期	1回	手散布 300	晩腐病 黒とう病 つる割病	①デランフロアブルは人によりかぶれるので注意する。(石灰硫黄合剤と混用不可) ②黒とう病発生園は必ず手散布で死角の無いよう散布する。 ③デランフロアブルは発芽後の新葉に薬害が発生するため、必ず発芽前に散布する。
	5月上旬 (発芽直後)	②展着剤 モスピラン顆粒水溶剤	10mℓ 50g	14日前	3回	300	クワコカイガラムシ (カスカミカ)	①訪花昆虫対策として早朝散布・下草刈りを実施厳守する。併せて散布適期を厳守する。 ②カスカミカ発生園はモスピランに代えてスミチオン水和剤1,000倍(30日前まで、2回)を散布する。
	展葉2-3枚 (5月上中旬)	黒とう病重要防除 ③展着剤 オンリーワンフロアブル ダイアジノン水和剤34	10mℓ 50mℓ 100g	前日 30日前	3回 2回	300	晩腐病 黒とう病 うどんこ病 灰色かび病 (カスカミカ)	※黒とう病対策のため、必ず散布時期を守りたっぷり散布する。 ①オンリーワンフロアブルに代えてキノトーフロアブル600倍(45日前、4回(開花後は1回))を使用しても良い。ただし薬液の汚れがあるので、散布時は施設や住宅への飛散に注意する。
	5月下旬 展葉6枚頃	[今回以降の防除は10日間隔を基本とする] ④展着剤 オーソサイド水和剤80	10mℓ 125g	30日前	2回	300	晩腐病 べと病 灰色かび病 黒とう病	①オーソサイド水和剤80とアリエッティC水和剤の成分は同一成分のため使用回数に注意する。(合計2回まで) ②カイガラムシ類・カスカミカ類、(ツヤケシカガラムシ)発生園はコルト顆粒水和剤3,000倍(前日、3回)を加用する。
	6月上旬 展葉9枚頃	⑤展着剤 ドーシャスフロアブル	10mℓ 50mℓ	60日前	3回	300	晩腐病 べと病 黒とう病	
	6月上旬 展葉10枚頃	⑥展着剤 ストマイ液剤20	10mℓ 100mℓ	満開予定日の 14日前～ 開花始期	1回	300	無種子化	①散布遅れがないように注意する。 ②有核巨峰には絶対に飛散しないよう注意する。 ③花穂に当たるようたっぷり散布する
	6月上旬 開花始期	展着剤 フラスター液剤	10mℓ 50～ 66mℓ	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	1回	150	着粒増加 新梢伸長抑制	①農薬とは混用しない。(単用散布とする) ②例年花振する園は必ずフラスターを散布する ③重複散布は強い新梢伸長抑制効果があるので避ける。
	6月中旬 開花直前	⑦展着剤 フルーツセイバー オーソサイド水和剤80 スプラサイド水和剤	10mℓ 66mℓ 125g 66g	7日前 30日前 14日前	3回 2回 2回	400	晩腐病 べと病 灰色かび病 褐斑病 黒とう病 チャノキアザミワ (スリップス類) フタテンヒメコバイ (ナミダニ類) (クビアスカガ)	①オーソサイド水和剤80とアリエッティC水和剤の成分は同一成分のため使用回数に注意する。(合計2回まで) ②昨年ハダニの発生があった場合はカネマイトフロアブル1,000倍(14日前、1回)を加用する。
	前回から 10日以内 (落花直後)	⑧コテツフロアブル スイッチ顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤	50mℓ 33g 100g	60日前 30日前 45日前	2回 2回 2回	400	①ジマンダイセン・ベンゼブ・リドミルは同一成分のため使用回数に注意する。(合計2回まで) ②昨年べと病の発生が多発した園はゾーベックエニケード5,000倍(14日前、2回)を加用する。	
	前回から 10日以内 (落花12日)	⑨フェニックスフロアブル ペンコゼブフロアブル アドマイヤー顆粒水和剤	25mℓ 100mℓ 10g	14日前 60日前 21日前	2回 2回 2回	400	①スリップス発生園は主軸に薬液が達するようたっぷり散布する。 ②マゼブの成分を含む農薬の使用回数に注意(上段注意事項) ③主幹害虫発生園は主幹、主枝にたっぷり散布する。	
	前回から 10日以内 (落花17～20日)	⑩ザンプロDMフロアブル アミスター10フロアブル ディアナWDG	50mℓ 100mℓ 10g	30日前 30日前 前日	2回 3回 2回	400	①散布の際は果粉溶脱に注意し散布する。	
	前回から 10日以内 (落花30日)	特別散布(袋かけ未実施園) ライメイフロアブル オンリーワンフロアブル アーデントフロアブル	25mℓ 50mℓ 50mℓ	14日前 前日 前日	3回 3回 4回	400	①袋かけが間に合わない園は必ず散布する。 ②散布の際は果粉溶脱に注意し散布する。	
	7月下旬 (袋掛直後)	⑪ムッシュボルドーDF アルバリン顆粒水溶剤 ダニコングフロアブル K.Kステッカー(展着剤)	200g 50g 50mℓ 33mℓ	— 前日 前日 —	— 3回 1回 —	400	①べと病の発生がある場合はムッシュボルドーDFに代えて「トフフロアブル」1,000倍(7日前、4回)を使用する。 ②ムッシュボルドーDFは高温時や降雨時に薬害がでるので、散布の際は注意する。 ③K.Kステッカーに代えてアビオン-E1,000倍を使用してもよい。	
	8月上旬 (前回から10日以内)	⑫ムッシュボルドーDF テルスター水和剤	200g 100g	— 14日前	— 1回	400	べと病 さび病 チャノキアザミワ	①ICボルドー66Dに代えて4-4式ボルドー、コサイド30002,000倍、ムッシュボルドーDF500倍を使用してもよい。(薬害の心配な園はクレフロンを加用する) ②ハダニ類発生園は「マイト水和剤」2,000倍(7日前、2回)を加用する。(散布直前混用) ③ボルドー液は、桃・プラム・梨等に薬害が発生するので、使用する場合は隣接園に注意する。 ④べと病発生園は、ICボルドーに代えて下記薬剤を使用する。 ・レーバスフロアブル2,000倍(7日前、3回) ⑤コガネムシ類・(アマガサハ)発生園はイカズチWDG1,500倍(7日前、5回)を加用する。(散布直前混用)
	8月中旬 (前回から10日以内)	⑬ICボルドー66D	2.5kg	—	—	400		
	8月下旬 (前回から10日以内)	⑭ICボルドー66D	2.5kg	—	—	400	べと病 さび病 晩腐病	
	9月上旬 (除袋直前)	特別散布 展着剤 ICボルドー66D	10mℓ 2.5kg	—	—	400		①収穫が遅れる場合は散布する。

安全・安心な農産物生産のために防除・使用規準を厳守しましょう。* 農薬散布の際は、隣接園・他作物へ飛散しないようにする。

当防除暦の複製・コピーの禁止